

# 令和3年(第49期)事業報告

(2021年1月1日～12月31日)

## 1. 事業の実施状況

(社会・経済情勢等)

新型コロナウイルスが2019年に初めて確認されてから2年が過ぎた。この新たな脅威に対し、世界中でこれまでの経済および社会生活は大きく揺さぶられることとなり、変容することを余儀なくされた。人と人を結ぶ直接的なコミュニケーションは大きく減退し、代って仕事または家庭の場でインターネットツールがこれまでの補助的使用から主要的な役割を目指す傾向に伸展していった。新型コロナウイルスは全国的なワクチン接種後に一旦沈静化の兆しを見せたものの、その後、毒性の強い変異種である“デルタ株”や感染力の高い“オミクロン株”の出現により、引き続き予断を許すことのない状況が今も続いている。

わが国においては昨年延期となったものの、57年ぶりに東京で夏季五輪が開催された。原則無観客とした異例の開催であったが、過去最多のメダル58個を獲得し、国内の沈滞する雰囲気を払拭するような盛り上がりを見せた。一方で自然災害の甚大化傾向は本年でも確認。7月に停滞する梅雨前線による大雨で静岡・伊豆山で土石流が発生し、死者26人の被害を出した。

(食品業界の諸動向)

前年に引き続き食品業界はコロナ禍で翻弄された1年となった。生活スタイルの変化は、内食そして個食需要の高まりをみせることとなり、一方、外食産業は制限下が重なる中で低迷し体力をそがれていった。この個食・内食の高まりは、より安全・安心な製品の選択購入志向にもつながり、生鮮品等を中心にオンライン通販といった製造家からの直販も一層進むこととなった。こうした流れは流通業界にも多大な影響を与え、個別宅配事業等が拡大していった。

また製造の現場において施設の機械化が一定進むものの、制限下における労働人口の不足・減少、さらにクラスター発生による工場の稼働停止といった案件も追い打ちをかけ、原料・製品不足が市場に大きく影響を与えていった。各国で食品の争奪・確保が進展することになった。主に食用油、小麦、大豆、砂糖、マーガリンが上がった。

一方、食品行政において6月から食品を扱う全事業者においてHACCP運用の完全義務化がスタートした。各種食品において必要な衛生管理の手引書が作成され、実行していくことが求められる。なお同月には、「営業許可制度の見直し」、

「営業届出制度の創設」も施行され、新たな許可事業者にとって施設面の整備等で対応が求められることとなった。

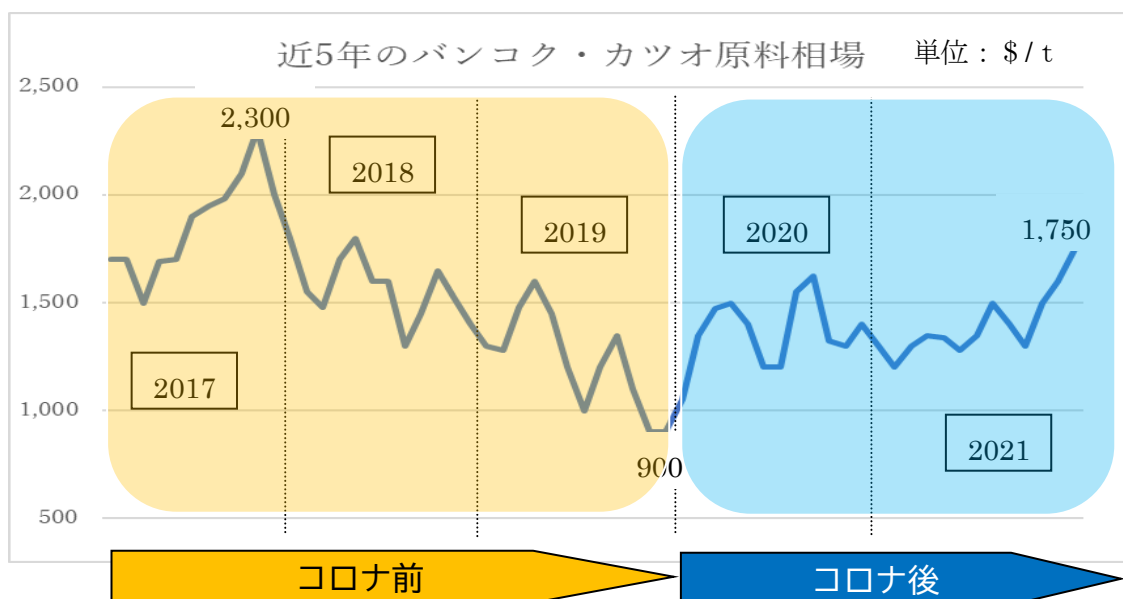
### 2018年6月13日公布 食品衛生法改正 主要事項施行日

広域的な食中毒事案への対策強化	19年6月～
HACCP(ハサップ)*に沿った衛生管理の制度化	21年6月～
特別の注意を必要とする成分等を含む食品による健康被害情報の収集	20年6月～
国際整合的な食品用器具・容器包装の衛生規制の整備	20年6月～
営業許可制度の見直し、営業届出制度の創設	21年6月～
食品リコール情報の報告制度の創設	21年6月～

#### (鯉節業界を取り巻く諸動向)

これまでに触れたように生活スタイルの変化は仕事や家庭の場を大きく変え、それを補完すべくインターネットツールを利用したアプローチが活発に取り組まれるようになった。鯉節業界においても、近年各社で鯉節・削り節に関して講習会等をオンラインでの企画や自社のHPに動画を掲載して独自に魅力ある情報発信を行う動きが出てきた。また家庭での調理時間が増えていく中で、各社では“こだわり”と“簡便さ”等をコンセプトに新商品を開発・提供した。

一方、原料事情についてみると、鯉節は主として中西部太平洋沖でまき網船によって漁獲されたカツオ（冷凍された状態で日本に水揚げされる）を使用して製造している。昨今では世界各国での魚食志向の高まりを受け、缶詰用途等でカツオは国際商材として注目されてきた。結果、タイ・バンコクのカツオ原料相場の動向は鯉節事業者に多大な影響を与えるようになった。



グラフは直近5年のタイ・バンコクの冷凍カツオ相場の動きを示したもので

ある。2019年11月に新型コロナウイルスが中国で初確認されたことから、20年以降をコロナ後とした。

2017～2019年はトンあたり2,300ドルの最高値を示す一方、最低値でもある900ドルまで落ち込む等の乱高下していた。2020年初は、反発するように価格を押し上げたが、これはカツオの世界的な漁獲低調の煽りを受けて、需給環境が一変したことにもよる。その後、漁獲量が安定するにつれて、在庫の高止まりと労働力の減退といったコロナの影響を色濃く受けることとなった。直近においては漁獲量の不安定さや、それに伴う原魚確保の動き、他方、クラスターの問題にもよる製造工場や漁業者等労働力の低下、すべてが相まった中で多少の波があるものの一定範囲で高位安定した値動きを見せている。2021年末には原料確保の動きが活発化した結果、価格は上昇し1,750ドルで越年した。

このほか食品衛生法改正において6月よりHACCP対応が義務化された。当業界においても節類製造事業者、削節製造事業者は個別のガイドラインに沿って自社の衛生管理計画を立て、記録していくことが求められることとなった。

#### (日本鯉節協会の活動)

今期は役員の変更期であった。高津会長が重任し3期目がスタートした。また副会長5氏のうち川崎副会長が退任し新たに西脇副会長が就任をした。

総務関連では、リモートおよび書面での理事会を開催した。ワクチン接種後において一定落ち着きを見せたものの、相対での通常開催には及ばなかった。全体的に活動自体が鈍くなりつつも、他団体との協力活動は粛々で行った。(一社)日本海老協会は10月に東京・二子玉川において海老フェスを開催した。当会はこれに協力し、会場での合わせだしの実演を行った。また12月に高知・土佐清水において行われたカツオサミットにも後援した。

会員の異動では、青森・田向商店、静岡・東静岡組合が事業の継続が困難との理由で退会した。

また協会役員として業界発展に尽力された中部組合・小瀬木栄一氏、大阪組合・宮成介氏が2月に逝去された。

広報・情報宣伝関連では、食育推進全国大会、農林水産祭“実りのフェスティバル”等、各種イベントの中止・延期が続いた。このため前年に引き続き事業計画の目途の立たない厳しい状況で推移した。一方で、コロナ禍において家庭で過ごす時間が増えたことにより、テレビ・雑誌等マスコミで鯉節・削り節が注目され、鯉節・削り節の使い方、だし、そして栄養面等の問い合わせに適宜対応した。また協会HPに関して、再度提供情報の見直しを含めて修正作業を検討していき、次年度でのリニューアルを目指すこととなった。

流通改善関連において、各団体でイベント中止が相次ぐ状況を踏まえて、第

21 回全国鰹節類品評会の再延期を決断した。また各産地においても安房地区を除き、引き続き入札会の中止を余儀なくされた。

技術研究関連では、食品衛生法改正における節類のHACCPガイドラインに関し厚労省との調整が続いていたが、2月によりやく確認作業が終了し、3月末には冊子形態で全会員に配布を行った。

なお現役員である小瀬木栄三氏から故小瀬木栄一氏の遺志として業界発展の一助を願い、協会への寄付が寄せられた。

#### 総務部

- 2月 5日 理事会開催、第48期総会提出の議案書を審議、承認
- 2月24日 監査会開催
- 3月19日 第48回通常総会開催（於：(株)にんべん）－全議案原案どおり承認・可決
- 3月19日 理事会開催、会長、副会長の選任－高津会長重任、西脇副会長新任
- 3月30日 令和3年度会費請求
- 5月25日 全国削節工業協会、通常総会開催（於：東京）－高津会長出席
- 6月 1日 改正食品衛生法が施行、HACCP義務化等スタート
- 6月 4日 理事会（書面）開催、品評会の開催日等の変更を決議
- 11月17日 理事会開催（於：東京）、事業執行状況等確認

#### 広報・情報宣伝部

- 3月16日 NHK「一節入魂、己を込める～鰹節職人・瀬崎祐介」
- 6月26日 第16回食育推進全国大会（岩手）、WEBでの情報発信へ変更
- 7月16日 文科省、新設の無形民俗文化財に「土佐節の製造技術」を登録（答申）－9月30日付で告示
- 10月 3日 TBS「ウッチャン式」－三福エンターテイメントが鰹節をプレゼン
- 15日 日本海老協会が東京・二子玉川で「海老フェス」を開催、日本鰹節協会、後援・協力。昆布、鰹節の合わせだしを実演
- 11月12日 農林水産祭「実りのフェスティバル」中止
- 12月 3日 第2回全国カツオまつりサミット in 土佐清水開催（4日まで）、日本鰹節協会後援・協力
- 13日 NHK「うまいッ！」に協力

#### 流通改善部

- 6月11日 さつま入札会中止を決定

- 7月 1日 焼津組合、焼津入札会中止を決定  
 10月16日 安房地区加工連節類共販会開催  
 技術研究部  
 3月30日 小規模な節類製造事業者向け「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書」を会員に配布  
 11月15日 農水省、PAH低減で意見交換  
 12月 9日 第28回鯉節安全委員会開催（リモート開催）

#### その他(会員および業界の動向)

- 2月 4日 中部組合、(株)メイカツ・小瀬木栄一氏逝去  
 18日 大阪組合、(株)靱鯉節店・宮成介氏逝去  
 3月30日 (有)わくだ・和久田實氏逝去  
 4月20日 焼津鯉節伝統技術研鑽会、若手後継者への技術伝承へ実技指導  
 29日 21年春勲章受章者、海まき協会・中前明会長が瑞宝中綬章、(株)神戸洋行・船越照平社長が旭日双光章を受章  
 4月 日本カツオ学会、“10年史”を刊行  
 5月21日 山川組合、徳留商店・徳留隆一社長逝去  
 5月 山川・藏菌治己氏「鯉節と浦人たちの歴史」を執筆・刊行  
 10月 4日 (株)マルモ・大茂健二郎氏逝去

(※太字は特記事項)

## 2. 会員の状況

	03.1.1 現在会員数	増減	03.12.31.現在会員数
組合会員	14	-1	13
一般会員	35	-1	34
合計	49	-2	47

## 3. 会議の開催

開催日	名称	議題
2月 5日	理事会	第48期総会提出議案書を審議
3月19日	第48回総会	令和2年度事業報告および平成3年度事業計画
”	理事会	役員改選に伴う会長、副会長の選任等
6月 4日	理事会	全国鯉節類品評会の日程変更を審議
11月17日	理事会	令和3年事業執行状況等確認